

2015年度 自己評価結果公表シート

平安女学院大学附属幼稚園

1、本園の教育目標

キリスト教の愛の精神を教育の基本に据え、「自分のことばかりでなく他人のことも考えることのできる子ども」を目標にしています

- ① 自然とたくさん触れ合うなかで、子どもが自分の力で考え、心を動かし、探求し、判断し、想像力や創造力をもっていきいきと活動する
- ② いろいろな人と一緒に過ごすなかで、自分と友だちや他の人々との違いを認めるとともに、信頼を持つとともに生活する
- ③ 絵本とたくさん触れ合うことで、豊かな感性をはぐくむ

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・一人ひとりの子どもが、安心して園生活を送るために、個々の状況を把握し、保育内容及び指導方法の見直しを行う
- ・継続している大学教員との実践研究を深める
- ・視聴覚教材としての絵本を活用し、子どもの豊かな感性を育む

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
子ども一人ひとりの状況を把握し、全保育者で共有し、話し合いを行う	話し合いを重ねる事で、様々な状況を把握し、多角的に捉えることができた。
子どもたちの遊びの一部分に焦点を当て、実践研究を深める	子どもたちの遊びをより観察し、記録を取り、検討を重ねた結果、研究を深める事ができた
子育て支援の充実を図るため、預かり保育の開室時間を延ばす	早朝及び保育後の預かり保育時間を延長する事で、利用者の拡充に繋がった
危機管理・安全管理を充実させる	隣接する大学との連携を一層図り、情報を共有している。また、園内の防災用品の見直しを進めている

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・個々の状況を多角的に捉える事で、その都度必要な支援・援助を行う事ができた
- ・預かり保育の開室時間が延びた事で、保護者がそれぞれのニーズに合わせて利用できるようになった

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
視聴覚教材としての絵本を積極的に活用する	子どもや保護者がより絵本に親しむ機会を持つように、環境構成を工夫し、さまざまな方法で伝える
保護者の要望を把握し、子育て支援のさまざまな活動に取り入れる	自園の持つ、自然環境を活かした取り組みを充実させる
危機管理・安全管理をより一層充実させる	園内の設備や保護者利用の駐車場の現状を見直し、整備を行う

6、学校関係者の評価

【保育について】

- ・個性を尊重し、一人ひとりに合った保育を実践している
- ・子どもに対する教員の数が多く、ゆっくりじっくり園児との関わりを持ってくれる
- ・四季を感じる保育が行われる
- ・多様な発達段階の子どもが交わって生活できる
- ・保護者に対して開かれた保育が行われる
- ・キリスト教の教えに基づき、人に対する感謝や思いやりの心が育まれる

【教員の資質について】

- ・教員内での報告・相談・連携が密に取れており、教員全体で子どもの状況を把握できている
- ・保護者の悩みなどを受け入れ、親身になって話を聞いてくれる
- ・経験豊富な教員が多く、一人ひとりに合った関わりを持って接して下さり、安心して預けられる

【行事について】

- ・決められたことをやるのではなく、子ども達が主体となって行われる
- ・親子で参加する行事が多い

【その他】

- ・環境に恵まれ、一つ一つの遊びをじっくりと楽しむことができる
(水遊び、山、広い園庭と大学グラウンド など)

【改善してほしいこと】

- ・駐車場でこぼこをもう少し舗装してもらえると嬉しい

7、財務状況

公認会計士による監査の結果、適正であると認められている。